

# 原油市場展望

2026年4月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

# 目次

◆現状・見通し……………p. 2

◆トピック……………p. 3

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 <p>経済・政策情報メールマガジン</p>	 <p>日本総研調査部X (旧Twitter)</p>	 <p>日本総研YouTube</p>

## 調査部 マクロ経済研究センター (米欧経済グループ)

研究員 梶野 裕貴 (Tel: 070-3344-2620 Mail: [togano.yuki@jri.co.jp](mailto:togano.yuki@jri.co.jp))

- ◆本資料は2026年4月9日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

# 原油価格見通し：当面100ドル前後で高止まり

## ◆現状：100ドルを挟んで乱高下

3月のWTI原油先物価格は、上旬に100ドル弱に急騰。米国・イスラエルによる攻撃を受けたイランが、石油輸送の要衝であるホルムズ海峡を封鎖したほか、最高指導者として保守強硬派のモジタバ師を選出したことが価格上昇圧力に。

中旬以降は、100ドル前後で一進一退。イランによる石油関連施設への攻撃を受けて、湾岸産油国が大規模な減産を余儀なくされたことが価格を押し上げ。一方、早期停戦を示唆するトランプ米大統領の発言や、諸外国による石油備蓄の協調放出を材料に供給懸念が和らいだことが価格を下押し。

4月入り後は、110ドル台に上昇した後、90ドル台に反落。戦闘が一段と激化すると観測が強まった一方、米国とイランが2週間の停戦に合意したことが原油価格を押し下げ。

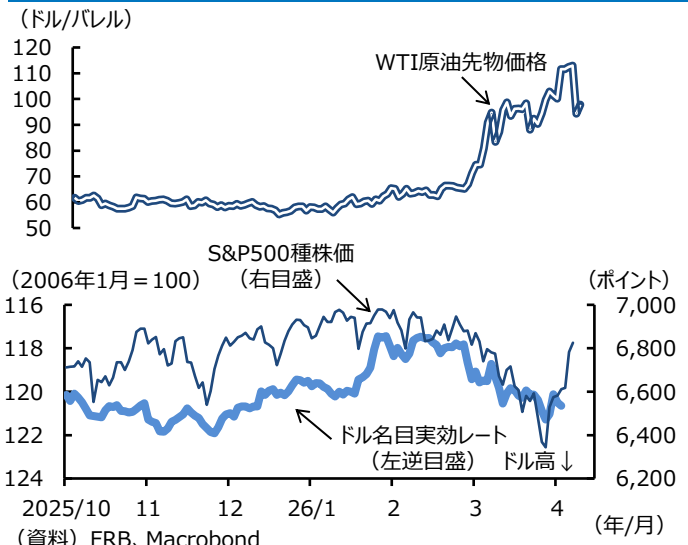
## ◆投機筋のポジションは拡大

投機筋の買い越し幅は足元で大幅に拡大。米国・イスラエルとイランの戦闘が激化するなど、地政学的リスクの高まりが背景。

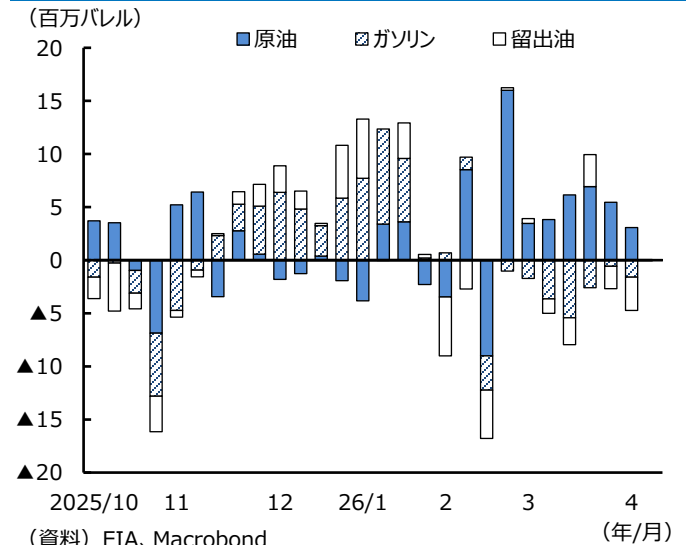
## ◆見通し：当面100ドル前後で高止まり

イラン戦争の5月までの終結を前提とする標準シナリオでは、原油価格は100ドル前後で当面高止まりした後、緩やかに下落する見通し。ホルムズ海峡を経由する石油輸送の正常化や、湾岸産油国の石油増産ペースが緩やかに回復することが背景。ただし、戦闘が再開すれば、価格が急騰するリスクも。

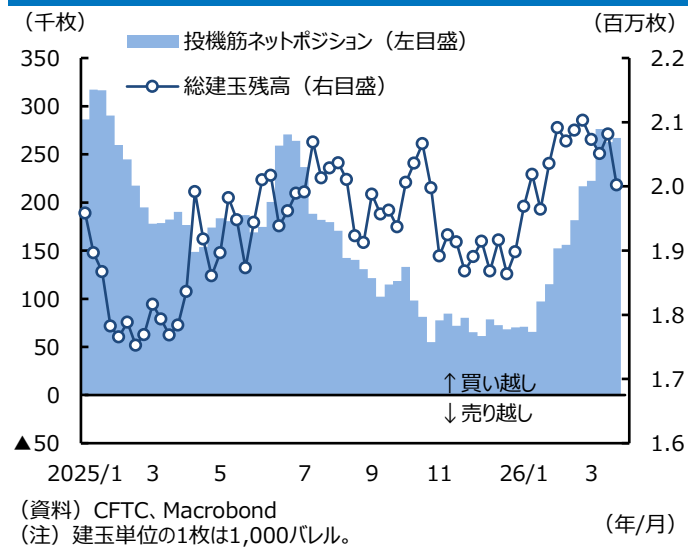
## 原油価格と株価・為替レート



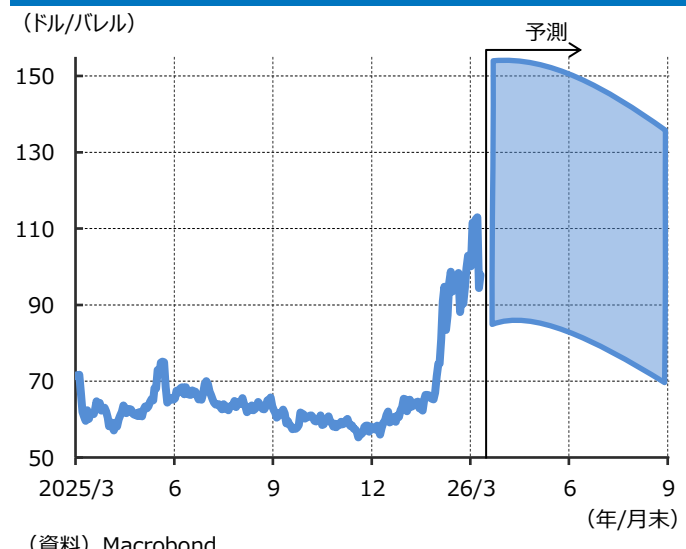
## 米国の原油・石油製品在庫（前週差）



## WTI原油先物ポジション



## WTI原油先物価格見通し



## ◆わが国で高まる米国産原油への期待

3月19日に開催された日米首脳会談では、高市首相が米国産原油の輸入拡大や共同備蓄を進める意向を表明。中東からの原油調達が困難になるなか、代替調達を早急に進めて、わが国が石油不足に陥るのを防ぐことが狙い。

## ◆米国で急ピッチな増産を行うのは困難

もっとも、以下3点の理由から、米国の石油企業がすぐに大規模な増産を行うのは困難と予想。

第1に、増産までのタイムラグ。投資決定を受けて、新規掘削を行い、油井に仕上げを施して、原油を産出するまでには半年以上の期間が必要。足元の原油高による増産効果が発現するのは今秋以降。

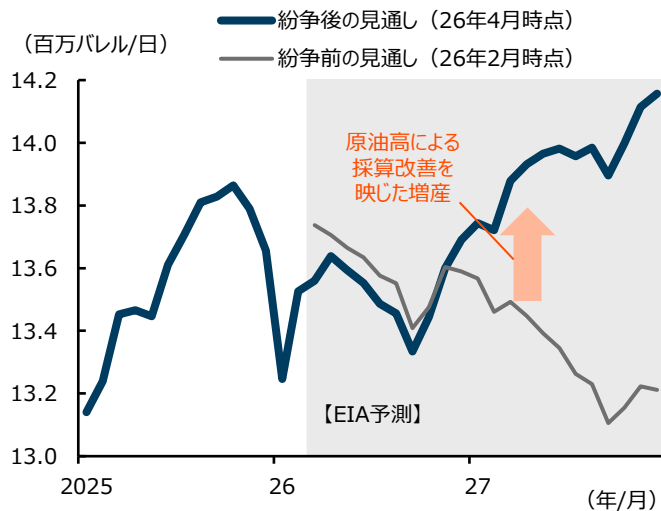
第2に、増産余力の低下。実質的な在庫であるDUCの数は、足元で統計開始以来の最低水準まで減少。石油企業がDUCに仕上げ工程を施すことで、短期的に生産量を増加させる余地は縮小。

第3に、不確実性の高さ。足元の原油価格に関する不確実性は、オイルショック時並みの水準。中東情勢の先行きが見通せず、企業が収益計画を立てにくいことが、増産に向けた投資を慎重化させる公算。

## ◆米国以外からの調達や省エネも重要に

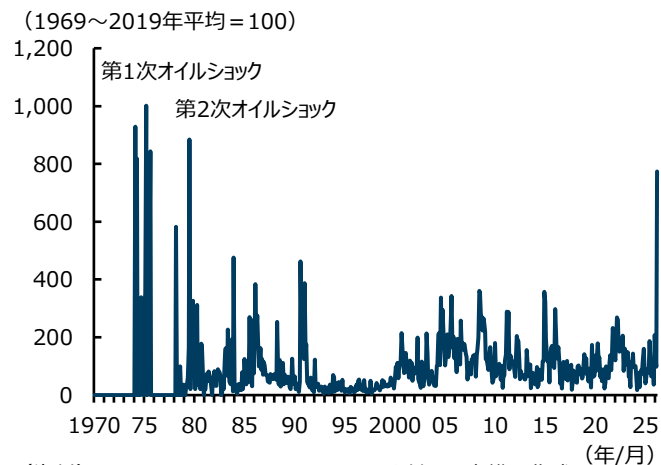
以上を踏まえると、わが国政府は、米国以外の国に対しても、代替調達に向けた交渉を加速させる必要。確認埋蔵量や可採年数に基づくと、潜在的な調達先候補は複数存在。代替調達が遅れる事態に備えて、石油消費の効率化（省エネ）も重要。

## 米国の原油生産量の見通し



（資料）EIAを基に日本総研作成

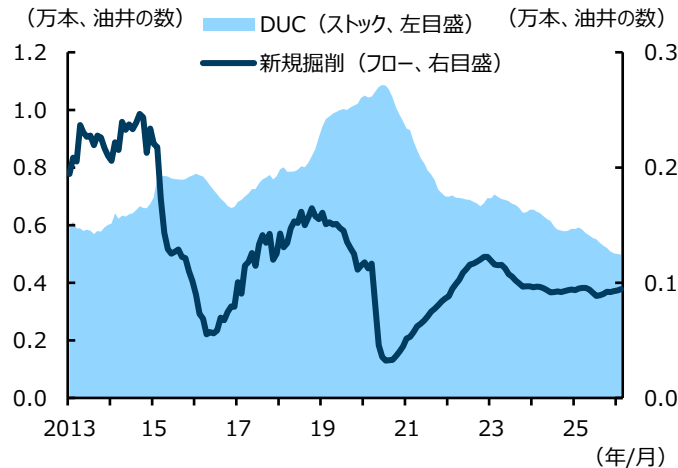
## 原油価格不確実性指数



（資料）Economic Policy Uncertaintyを基に日本総研作成

（注）原油価格の不確実性に言及する記事が世界の新聞記事全体に占める割合から算出されたもの。

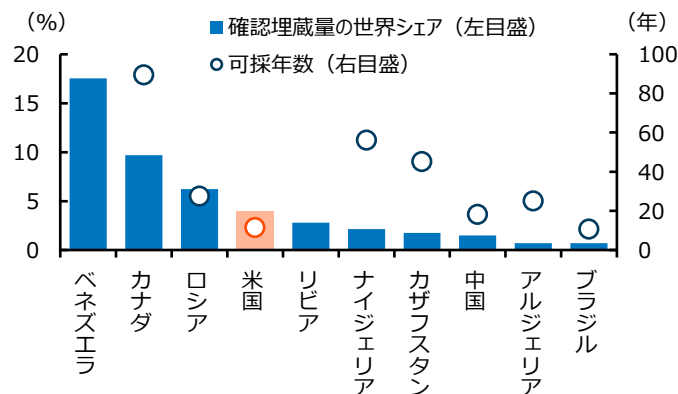
## 米国のDUCと新規掘削油井



（資料）EIAを基に日本総研作成

（注）DUCは、掘削済みだが仕上げが済んでいない油井（Drilled but UnCompleted wells）。

## 各国の原油確認埋蔵量と可採年数



（資料）Energy Instituteを基に日本総研作成

（注）中東除く埋蔵量上位10か国（20年末）を図示。確認埋蔵量は、現在の経済条件のもとで掘削可能な量であり、油価変動や技術革新等で変動。可採年数は、確認埋蔵量を年間生産量で除したもので、現行ペースで何年掘削可能かを示す（ベネズエラは1538年、リビアは339年）。

# 公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

- |   |                       |       |
|---|-----------------------|-------|
| ▶ <a href="#">米・イラン戦闘停止を踏まえ、今後の原油価格をどうみるか — 当面100ドル前後で推移、戦闘再開なら150ドルも —</a>         | 梶野裕貴                  | 4月10日 |
| ▶ <a href="#">ドイツの公共投資、防衛とインフラで大きな差 — 債務ブレーキ緩和から1年、輸入依存を強める防衛品目、供給制約に苦慮するインフラ —</a> | 中井勇良                  | 4月3日  |
| ▶ <a href="#">高まる米国企業の収益力 — 労働から資本へのシフトと交易条件の改善が主因 —</a>                            | 森田一至                  | 4月2日  |
| ▶ <a href="#">米国で進むA I代替、雇用370万人減も — トランプ政策も助長、求められる補完的な活用への誘導 —</a>                | 森田一至<br>立石宗一郎<br>西岡慎一 | 3月30日 |
| ▶ <a href="#">原油高定着ならF R Bは大幅利上げも視野 — 原油120ドル定着で政策金利1%押し上げ —</a>                    | 森田一至                  | 3月24日 |
| ▶ <a href="#">中東危機の長期化が欧州に落とす影 — 原油・ガス価格の高止まりでインフレ率2%押し上げ、消費▲1%押し下げ —</a>           | 中井勇良                  | 3月23日 |
| ▶ <a href="#">ホルムズ海峡が封鎖されても、すぐには「掘りまくれ」ない米国 — 中東産原油の代替調達先として過度な期待は禁物 —</a>          | 梶野裕貴                  | 3月18日 |
| ▶ <a href="#">米国・イラン軍事衝突による主要国への経済的影響 — 資源価格上昇により日中欧合わせて最大140兆円の所得流出 —</a>          | 若林厚仁                  | 3月4日  |